



午前の部。
子どもたちは、白色の服を纏わなくてはなりません。

トンガのこどもの日“ファカメイ”

青年海外協力隊 2018 年度 1 次隊 派遣国：トンガ王国 伊藤有未（三郷市）

トンガはキリスト教国家で、多くの国民がフリーウェズリアンと呼ばれる宗派を信仰しています。私も赴任当初から、隣に住む同僚家族に声をかけてもらい、毎週日曜日、10時から始まるメインサービスと昼過ぎから開始される幼稚園から高校生が対象のサンデースクールに通っています。年齢別に分けられたクラスでは、主に聖書の教えについて学習します。

こどもの日は、5月第1週目の日曜日。

トンガ語で「ファカメイ」と言います。

午前中は各家族から子ども1人が代表

し、聖書の一部を朗読。服装は、白色と

指定されています。夕方からは、クラス

別の寸劇を披露。色の指定はないもの

の、新品の衣装を身に付けることが望ま



トンガの正装を纏い、いつもよりおめかしする同島の女性隊員。

しいとされています。3月中旬頃に役決めし、4月は歌と寸劇の練習。ファカメイは先生や保護者に見守られながら行われる、いわば成果発表会です。

私も高校生クラスに入れてもらい、寸劇に参加しました。練習段階から、動きや歌、発音を丁寧に教えてくれる学生たち。上手く朗読できるとグッドサインや拍手をくれたり、不安を払拭してもらいながら、前向きな姿勢で練習にも臨むことができました。当日は、暗唱だけで精一杯なのに、大勢の人たちを前に緊張。日本人という理由で、注目度も自然と高くなっていました。無事にやり遂げた瞬間、達成感だけでなく、ボランティアというよそ者意識が消え、どこか「私もトンガ人になったのでは」との錯覚に陥りました。同僚家族が準備してくれたお揃いのドレスを纏い、トンガの正装であるタオバラ(ござのような腰巻き)と装飾品を身に付け、身も心もトンガ人になった1日でした。そして、トンガの子どもたちと同じ時間を共有できたファカメイは、赴任以降に触れてきた数々のトンガ文化の中でも、自慢の経験の1つとなりました。

最後に、日本人の私にトンガ文化を知ってもらいたいと準備段階から当日まで、全面的にお世話してくれた同僚家族には感謝の気持ちでいっぱいです。



午後の部は、自由な服装です。同僚家族が準備してくれたお揃いの素敵な衣装で、寸劇に挑戦しました。